

開会式

小関会長あいさつ

皆さん、お久しぶりです。この流星会議資料の扉のところに、「さわやかな信州で流星を語り親睦を深めましょう」と書いてありますが、このために準備くださった地元のさまざまなスタッフの方にまずお礼申し上げます。また、参加いただいた方々にもお礼申し上げます。皆さんが集まることによって、この流星会議が成り立っています。たとえば、研究発表でしたらペーパーとしてどこかに投稿してしまえばそれでおしまいです。そうではなくやはり顔と顔を突き合わせて、メールでやりとりするだけでなくやはり顔と顔を突き合わせてお互いに声を交わして話をしていく。そこに流星会議の意義があるのではなかろうかと思えます。いろいろな学会があります。学会に参加される方もいらっしゃると思いますが、学会が開かれるということ、それも大きな目的は顔を合わせることにあります。この流星会議は私たちアマチュアの会です。親睦を深めそこでいろいろな刺激を受けていく。これが非常に大きな意義だと思います。ぜひ積極的に声をかけあって、親睦を深めていきたいと思えます。簡単ではございますが、開会のあいさつとします。よろしく願います。



閉会式

吉田副会長 講評

皆さんご苦労様でした。特に地元のお世話いただいたスタッフの方々、ありがとうございました。

皆さん大変な時期にさしかかっています。年齢的にも大変な時期にさしかかっているのは私自身も十分にわかっています。ですから、そういう中であってこれだけの方に流星会議に参加いただいたことに感謝するとともに、皆様の努力に敬意を払いたいと思えます。

私は、去年の流星会議の時に、川崎さんから、また、小関さんから副会長をやらないかというお話をいただいて、正直どうしたものかなと迷いました。現在の日本流星研究会の状況は薄々わかっていましたし、また、自分自身への不安もありましたので、しばらく考えさせていただけたいと返事をしました。しかし、今日これまで観測できたり成果を発表できたこと、このように私を育ててくれたのは、日本流星研究会だという思いがありました。自分が今なかなか観測できないということは、等身大の問題として会の問題でもあるのだとも考えました。なんとか私自身も活路を見出したいという考えもありまして、6年ぶりに皆さんと会の仕事をさせていただきたいと返事をしました。

日本流星研究会の若返りは、できればいいなという希望はありますが、これはとても望めないことだという認識の上に立って、今後どうやっていけばよいかを考えました。私もそんなに忙しくない状況になりましたが、特に60歳を過ぎてフリーになったという方々もおられ、今後どんどん増えていくだろうと思います。昔と違って、現在の60歳というのはまだまだ青年です。ただ、健康でいるという前提がありますから、健康を害せずそういう世代にがんばっていただきたいという考えもあります。



横田さんがさきほど非常にうまくまとめてくださいましたが、私たちは眼視観測をベースにZHRといろいろな補正を行ってきました。先ほどあった小楨Fもその一つです。ヨーロッパでもいろいろなことが考えられ、IMOでもその方法をまとめました。眼視観測はそのような経緯をたどってきました。TV観測を考えると、暗い流星の軌道を決定するとか、火球をパトロールするという明確な目的を持たずに撮影されているのは、観測ではなくて写ったというだけの、かつてフィルムカメラをあちらこちらに向けて流星が写ったとっている状態と同じではないかなと思います。眼視観測をこれまでずっとやっていた方が、何歳になっても同じコンディションで眼視観測でZHRを求めることができるかどうかは難しいと考えられ、今後はTV観測をやっていくのが良いのではないかと思います。TVをたとえば天頂に向けて写ったというだけでは、眼視観測でやってきたZHRよりはるかに劣るものだと考えます。最微光星の補正など当然やるべきことをしっかりやっていけば、TV観測は眼視観測の継続として行えるのではないかと思います。眼視観測でもTV観測でもやることはやった、という気持ちがある一方で、まだまだ実施されていない分野はたくさんあると思います。言葉は不適當かもしれないが、ぜひとも日本流星研究会の復権に向かって皆さん邁進していただきたいと思っています。

今回の流星会議はプログラムが良かったと思います。何がテーマだということが非常にフォーカスされてとても良かったと思います。最後まで、「どうしたら良いか」ということが議論できたと私は考えています。来年も、参加するときは「何かやってみた」ということを、「こんなことをやってみたいと思っているんだ」ということを、何でも結構だと思いますが、何かを持ちよってほしいと思います。来年の流星会議でお会いできることを楽しみにしています。地元開催者のみなさんありがとうございました。

